

統合した場合のメリット・デメリット

メリット	デメリット
<p>〔教育的な観点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が集団の中で、多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける。 ○一定の規模の児童集団を確保でき、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団から教育を受けられる。 <p>〔過去の統合事例による効果の報告〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○良い意味での競い合いが生まれ、向上心が高まった。 ○以前よりもたくましくなった。教師に対する依存心が減った。 ○社会性やコミュニケーション能力が高まった。 ○友人が増えた。男女比の偏りが少なくなった。 ○異年齢交流が増えた。集団遊びが成立するようになった。休憩時間や放課後での外遊びが増えた。 ○より多くの教職員が多面的な観点で指導ができるようになった。 ○グループ学習や班活動が活性化した。授業で多様な意見を引き出せるようになった。 ○少人数指導や習熟度別指導などの多様な指導形態が可能になった。 	<p>〔環境の変化〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たな生活に戸惑いが生じることへ、統合前後において配慮が必要。 <p>〔通学条件〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○通学距離が長くなるため、スクールバスの導入などの対策が必要。 ○通学時間が長くなるため、徒歩の時間の減少による体力の低下や、放課後の遊びの時間、家庭学習の時間の減少、児童の疲労への配慮といったことも課題となる。 <p>〔地域コミュニティの核としての性格への配慮〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域のコミュニティの精神的支柱とも言うべき側面のある学校が無くなる。 ○学校は児童の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場等の様々な機能があり、今後のまちづくりの在り方が変わる。 ○統合後の学校と地域との関係が希薄化することが懸念される。

存続した場合のメリット・デメリット

メリット	デメリット
<p>〔少人数を生かした指導の充実〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。 ○意見や感想を発表できる機会が多くなる。 ○運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。 ○教材・教具などを一人ひとりに行き渡らせやすい。例えば高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である。 ○異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や郊外学習を機動的に行うことができる。 ○地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい。 ○児童の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な学習指導ができる。 	<p>〔児童数が少ないことによる学校運営上の課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる。 ○男女比の偏りが生じやすい。 ○児童から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。 ○班活動やグループ分けに制約が生じる。 ○体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。 <p>〔特に複式学級がある場合〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる。 ○兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生じる可能性がある。 <p>〔学校運営上の課題が児童に与える影響〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集団の中で自己主張したり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。 ○協同的な学びの実現が困難になる。 ○切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。 ○進学等の際には大きな集団への適応に困難を来す場合がある。